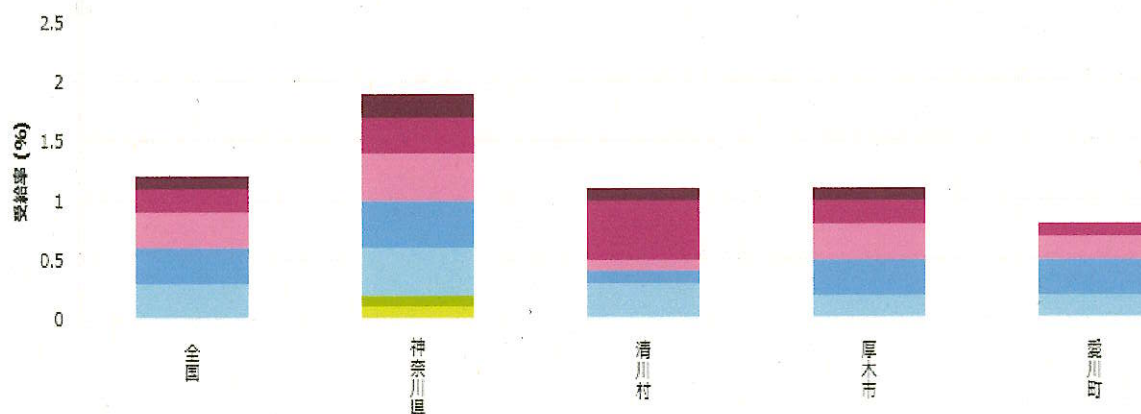


受給率（居住系サービス）（要介護度別）

要支援1 要支援2 要介護1 要介護2 要介護3 要介護4 要介護5



（時点）令和7年1月（2025年1月）

（出典）厚生労働省「介護保険事業状況報告」月報

※特定施設入居者生活介護（有料老人ホーム、サービス付き高齢者向け住宅）、認知症対応型共同生活介護（グループホーム）等

※R7.1 サービス分

～受給率とは～

当該月の（施設・在宅・居住系）サービス受給者数の総和を、第1号被保険者数で除した後、当該年度の月数で除した数。

受給率・分析内容

全国平均・神奈川県平均・近隣市町と比較して施設サービス受給率が高い。

施設及び居住系サービスは、要介護3～5の割合が多い。

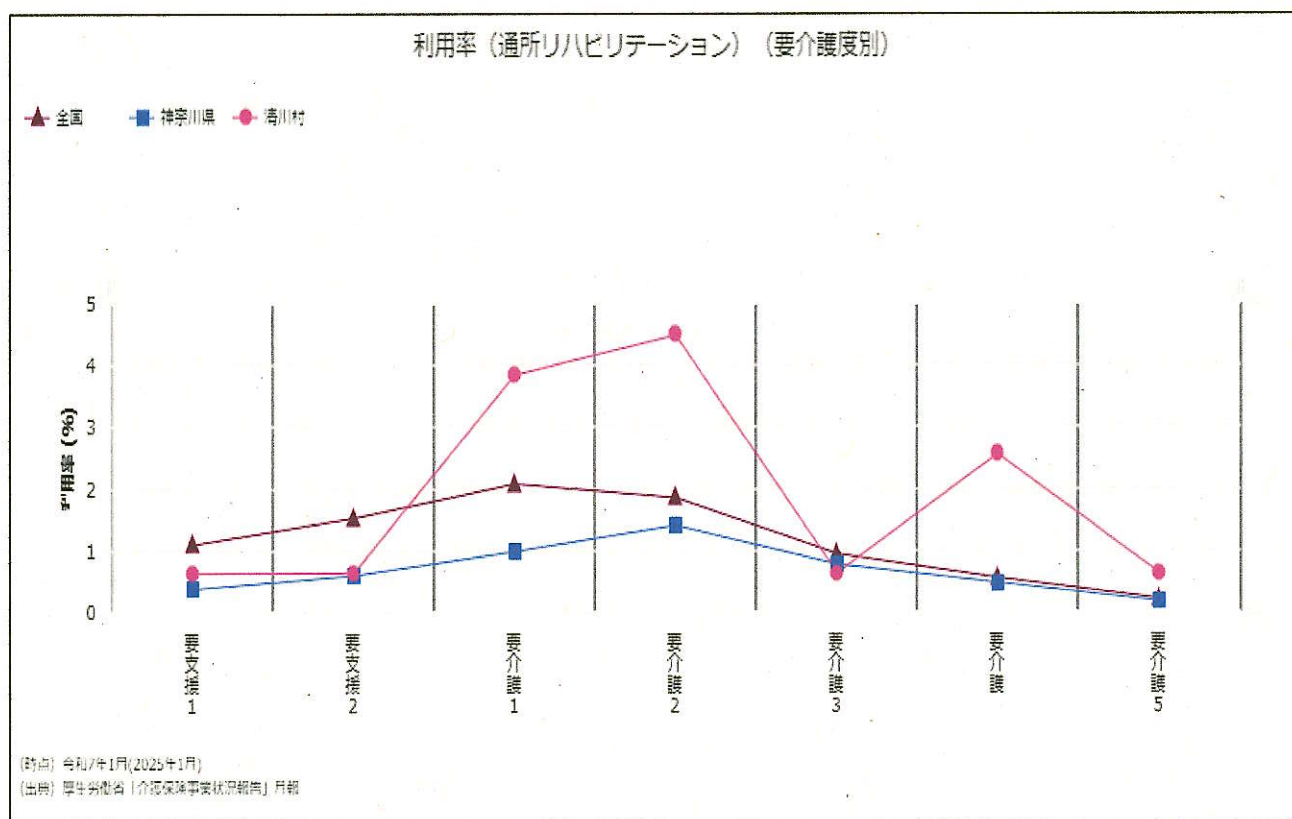
～全体・分析内容～

高齢化率は高いが、認定率は低い。元気な高齢者が多くいる一方で、サービスを受給している方の重度化や施設サービスの利用者が多いため、介護給付費は高くなっている。

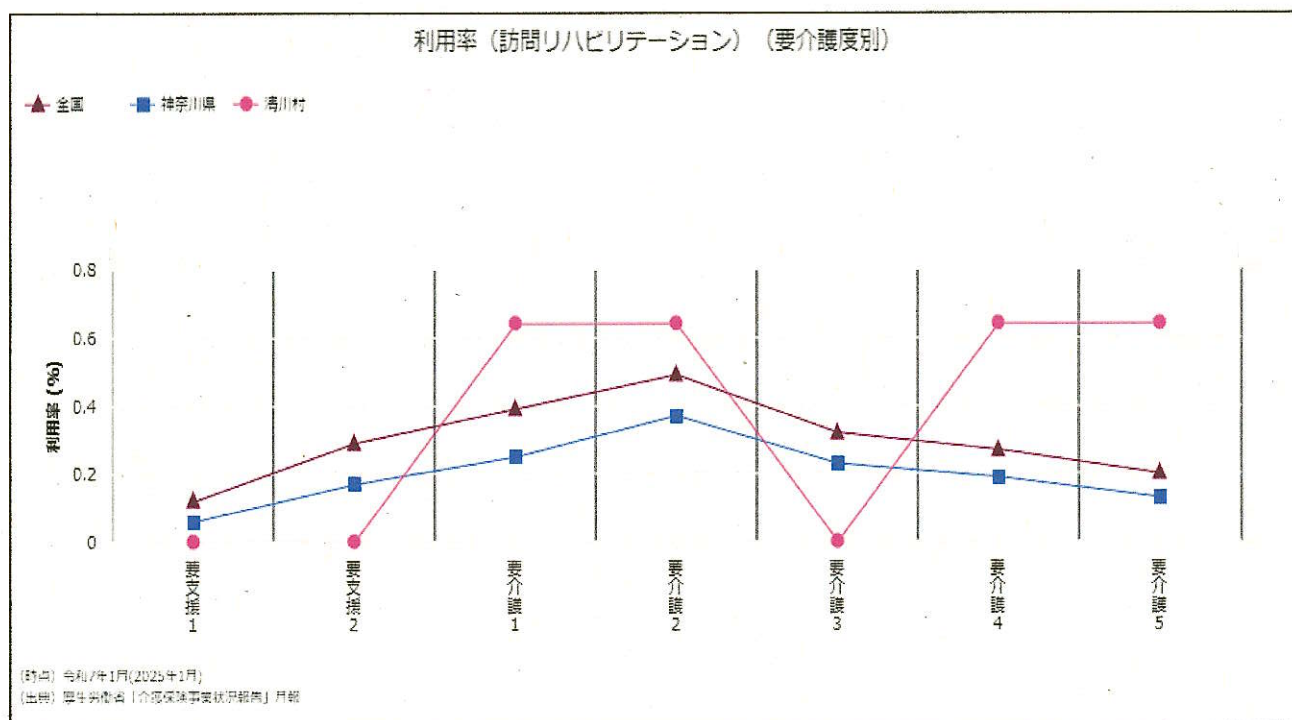
在宅サービスの充実とともに、重度化する前の健康づくり事業や介護予防事業等の強化が引き続き必要となる。

【令和6年度リハビリテーションサービス利用率比較（R7.1 サービス提供まで）】

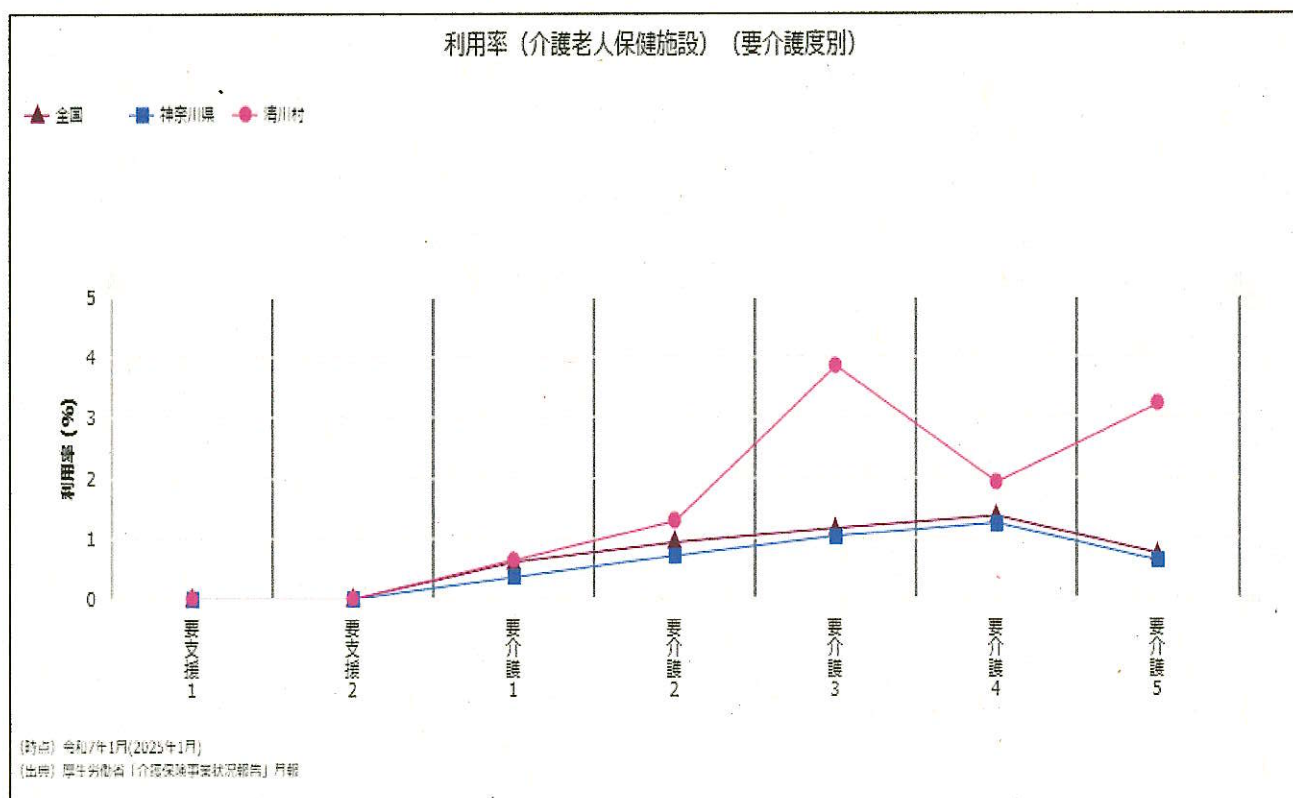
～地域包括ケア「見える化」システムより～



※R7.1 サービス分



※R7.1 サービス分



※R7.1 サービス分

リハビリテーションサービス利用率・分析内容

通所リハビリテーションは、要介護2の割合が高く、訪問リハビリテーションは、要支援1・2及び要介護3の該当者はいなかった。比較的軽度の利用者は通所の割合が高い。

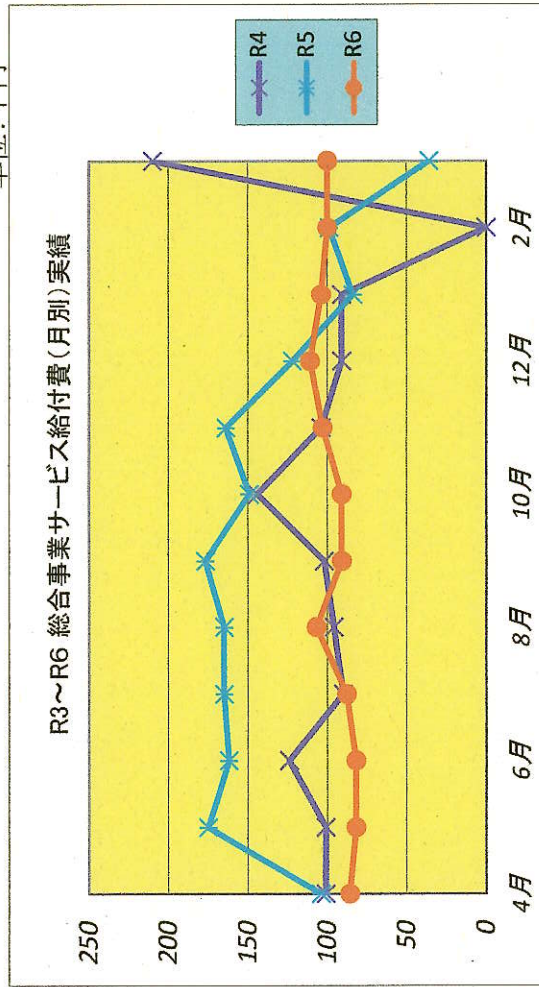
総合事業サービス給付費の動向

(単位:千円)

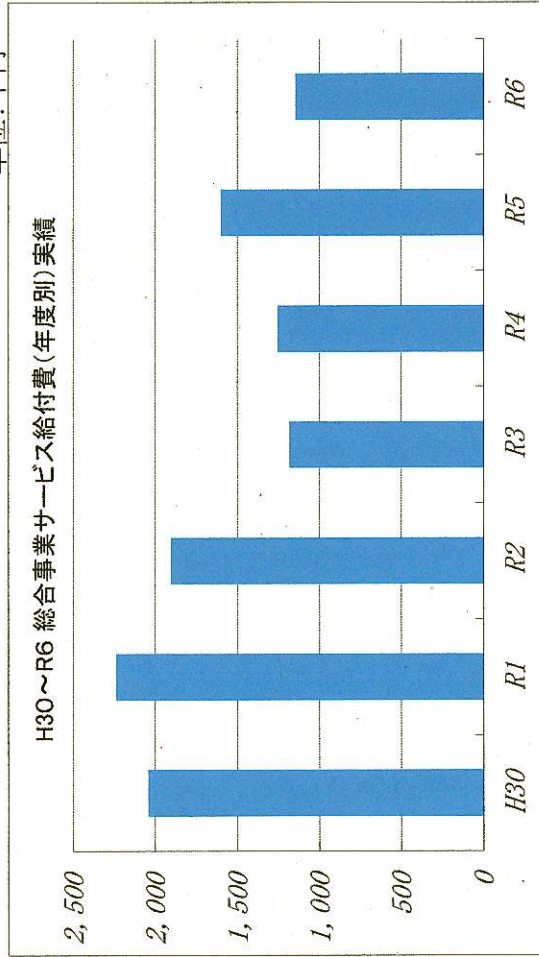
調査月 年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	計画値
H30	228	50	244	214	184	211	148	148	147	148	187	136	2,045	5,513
R1	155	209	192	167	216	173	202	193	209	180	200	143	2,239	5,675
R2	137	168	143	180	199	197	195	176	176	151	119	63	1,904	5,925
R3	89	70	68	68	163	132	140	88	88	104	87	87	1,184	3,482
R4	101	101	124	90	96	102	144	104	91	91	0	210	1,254	3,482
R5	104	175	162	165	165	177	149	164	122	84	99	36	1,602	3,482
R6	86	82	82	88	107	91	91	103	111	104	100	100	1,145	2,742

※通所型サービス(みなし→独自)と、訪問型サービス(みなし→独自)の実績合計額。

単位:千円



単位:千円



【令和6年度実績・分析内容】

給付費全体の実績は、前年度及び計画値と比較して減となった。
 サービス別では、訪問型サービス(独自)は利用者が増えたため、計画値及び前年度と比較して増となった。
 通所型サービス(独自)は、利用者が要介護になったことで、計画値及び前年度と比較して減となった。

R6年度	4月審査分			5月審査分			6月審査分			7月審査分			8月審査分			9月審査分			10月審査分		
	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費
通所型サービス(独自)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問型サービス(独自)	3	12	36,302	3	13	36,705	3	12	36,705	3	12	37,347	3	13	37,347	3	10	40,398	3	10	40,398
介護予防ケアマネジメント費	11		50,193	10		45,630	10		45,630	11		50,193	14		70,134	11		50,193	11		50,193
合計	14	12	86,495	13	13	82,335	13	12	82,335	14	12	87,540	17	13	107,481	14	10	90,591	14	10	90,591

R6年度	11月審査分			12月審査分			1月審査分			2月審査分			3月審査分			合計		
	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費
通所型サービス(独自)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
訪問型サービス(独自)	3	12	40,398	3	11	40,398	3	12	40,398	3	11	40,398	3	11	40,398	36	139	467,192
介護予防ケアマネジメント費	13	0	62,445	14	0	70,134	14	0	63,882	13	0	59,319	13		59,319	145	0	677,265
合計	16	12	102,843	17	11	110,532	17	12	104,280	16	11	99,717	16	11	99,717	181	139	1,144,457

【地域支援事業・介護予防・日常生活支援サービス事業費 実績値月平均比較】

R6年度	R6実績1カ月平均			【参考】R5実績1カ月平均			R6年間見込			R6計画値			計画値との差		
	人数	回数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費	件数	実日数	介護給付費
通所型サービス(独自)	0	0	0	2	8	60,628	0	0	0			888,000			888,000
訪問型サービス(独自)	3	12	38,933	4	22	72,883	36	139	467,192			1,008,000			540,808
介護予防ケアマネジメント費	12	0	56,439	13	0	62,021	145	0	677,265			846,000			168,735
合計	15	12	95,371	19	29	195,532	181	139	1,144,457			2,742,000			1,597,543

令和5年度 在宅医療・介護連携推進事業の取組について

事業の内容	取組内容と課題等
ア 地域の医療介護の資源の把握	(1) 「厚愛地区医療介護連携会議」において、「在宅医療介護福祉ハンドブック」を作成。その後、随時修正等を行い、ホームページに掲載。(平成30年度末で「厚愛地区医療介護連携会議」は解散。) ハンドブックの内容については、厚木市・愛川町と連携し、医療介護関係職員版(詳細版)を作成した。
イ 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討	(1) 厚木市・愛川町と連携し、厚愛地区版の「医師とケアマネジャーとの連絡票」及び「入院時情報提供書」を作成。(厚木医師会の協力に基づき、医療機関へアンケートを実施し作成。) 〈課題〉村内には社会資源が少ないことが課題。 近隣市町(厚木市、愛川町)で医療・介護を利用している人が多いため、近隣市町や関係機関と連携し、切れ目のない在宅医療・介護の提供体制の構築を推進している。
ウ 切れ目のない在宅医療と介護の提供体制の構築推進	(1) 厚木保健福祉事務所地域包括ケア・在宅医療推進会議において、関係機関と情報共有を図り、課題を抽出し、連携して解決のための取組みを検討。 【メンバー：医師会、地域医療支援病院、歯科医師会、薬剤師会、訪問リハビリ団体、介護保険施設団体、居宅介護支援団体、訪問看護ステーション、市町村(厚木保健福祉事務所管内)、保健福祉事務所】 (2) 県央地区保健医療福祉推進会議において、県の保険医療計画及び地域医療構想の推進のための意見交換を実施。 【メンバー：医師会、病院協会、歯科医師会、薬剤師会、看護協会、社会福祉協議会、医療保険者、三次救急医療機関、市町村(県央地区)、保健福祉事務所】 (3) 防災担当課や関係機関と、災害や救急時の対応について連携している。 〈課題〉村内には社会資源が少ないことが課題。 近隣市町(厚木市、愛川町)で医療・介護を利用している人が多いため、近隣市町や関係機関と連携し、切れ目のない在宅医療・介護の提供体制の構築を推進している。
エ 医療・介護関係者の情報共有の支援	(1) 令和元年度から厚木医師会の医師と多職種連携強化を図る「医療機関別ケアマネジャー等との連絡方法一覧」を構築。 (2) 地域包括支援センターが行っている75歳以上高齢者訪問事業で、「救急医療情報シート」を配布し、活用方法の案内と、場合によっては記入方法等を支援している。
オ 在宅医療・介護連携に関する相談支援	(1) 地域包括支援センターにおいて、相談支援を随時行った。 (2) 厚愛地区における在宅医療相談窓口業務について、令和6年10月より厚愛地区地域包括ケア連携センター「ルリアン」を厚木医師会に委託し事業を実施した。
カ 医療・介護関係者の研修	(1) 厚木市・愛川町・清川村の3市町村で連携し、厚木医療福祉連絡会から企画委員を選出して、厚愛地区多職種研修会(講話とグループワーク)をR7.2.2に実施。 (ICTをテーマに実施。80名参加。)
キ 地域住民への普及啓発	(1) 在宅医療・介護に関する講演会を、R6.12.19に実施。(在宅での看取りをテーマに実施。67名参加) (2) 地域包括だよりやパンフレット等の作成・配布により、地域住民の在宅医療・介護連携の理解を促進。
ク 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携	(1) 厚木市・愛川町・清川村の3市町村で随時協議等を行い、連携を行った。 (2) 厚木保健福祉事務所地域包括ケア・在宅医療推進会議に委員として出席し、情報共有や連携を行った。

市町村名	蒲川村
所屬名	子育て健康福祉課
担当者名	井上
電話	046-288-3861
メールアドレス	kaigo@vill.kanagawa.lg.jp

第9期介護保険事業計画に記載の内容						令和6年度(年度末実績)		
区分	現状と課題	第9期における具体的な取組	目標 (事業内容、指標等)	第9期計画掲載ページ	実施内容	自己評価	評価理由	課題と対応策
記入方法								
①自立支援・介護予防・重度化防止	「分」に関する施策を設定した情景や地域課題を記載してください。地域課題を生み出している要因なども併せて記載してください。	「現状と課題」に記載した課題等を解決するため、介護保険事業計画に記載した具体的な取組を記載してください。 ※1つの行に1つの取組を記載し、以下のように、複数取組がある場合は行を追加してください。	「具体的取組」の目標を記載願います。 【第9期介護保険事業計画に記載した目標】 (「進捗管理の手引き」38ページ2(1)④参照。)	取組と目標が記載されているページを記入してください。	取組と目標に関する具体的な実績(年度末実績)を記載願います。	市町村で設定した評価基準(例:達成率90%以上=A、70~89%=B、...)に基づき評価結果を記載してください。 なお、評価基準を下記に記録願います。	自己評価の評価理由を記載してください。 記載に当たっては、「進捗管理の手引き」38ページ2(2)②の1～Wの欄を参考に記載してください。	達成できなかった(あるいはできない)要因、今後の対応策等、「進捗管理の手引き」38ページ2(2)③の1～Vの欄を参考に記載してください。
②介護給付等費用の適正化 (リストから選択)	複数の取組にまたがる場合は、適宜セルを結合してください。(リストから選択)					【自己評価基準】 達成率 60%以上=A 70～89%=B 60～69%=C 50%以下=D		
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が健やかに生きがいのある充実した生活を送るため、生涯にわたって学習活動を行なえるよう多様な活動機会を提供する必要がある。	・高齢者団体育成事業 ・学習機会の創出と健康づくり自主生活の推進 ・交流機会の充実	高齢者団体育成(老人会)会員数目標: 令和6年度 70人	P23～P24	高齢者団体育成(老人会)会員数:71人 高齢者入門講座受講人数:13名 高齢者入門講座教育費:R6,731に実施 食料の調達(料理づくりに関する) ウォーキング(R6,10,28)を実施 健康講座(モルック大会)R7,21に実施	B	・高齢者の健康づくり自主活動や生涯スポーツの推進等を行った。	・老人会の全員の高齢化に伴い、会員数の減少が課題であったが、令和6年度は目標を達成することができた。今後も若い年齢層の高齢者の加入促進について、事務局等と連携し高齢者の社会参加につなげていく。
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が生きがいのある充実した生活を送るため、高齢者の持つ経験や知識・技術等を地域で活かせるよう就業支援をしていく必要がある。	・高齢者の就労の場の拡充 ・就業機会の創出と健康づくり自主生活の推進	高齢者の就労の場の拡充(生きがい事業)会員数目標: 令和6年度 50人 粗入会率:令和6年度 4.0% ※粗入会率は0歳以上人口に占める会員の割合	P23～P24	高齢者の就労支援(生きがい事業)会員数:48人 粗入会率:3.8%	B	・高齢者の就業の場の確保と雇用促進等を行った。	・定年退職年齢が引き上げられたことにより、就労を継続していたり、個人で趣味活動等をしている高齢者が多く、相い手が不足している。地域における助け合い体制整備の取り組みも不足しているため、生活支援コーディネーターと連携していく。
①自立支援・介護予防・重度化防止	早期から高齢者の生活習慣病を予防し、健康づくりや感染予防対策を推進する必要がある。	・健康づくりへの支援 ・感染症予防対策	高齢者インフルエンザ予防接種・接種率目標: 令和6年度 71.0% 高齢者肺炎球菌予防接種・接種率目標: 令和6年度 23.0%	P25～P26	高齢者インフルエンザ予防接種・接種率:56.3% 高齢者肺炎球菌予防接種・接種率:13.6%	B	・健康教育や個別指導等、感染症の感染拡大防止に考慮しながら事業を実施した。	・高齢者インフルエンザ予防接種の接種率は、目標値より下回った。また、高齢者肺炎球菌の接種率は、目標・前年実績ともに減少した。 引き続き啓発を行い、感染症予防対策を行う。
①自立支援・介護予防・重度化防止	早期から生活習慣病を予防し、高齢者の健康づくりや疾病予防対策を推進する必要がある。	・後期高齢者健康診査 ・がん検診 ・健康相談の充実	後期高齢者健康診査・受診率目標: 令和6年度 45.0% 未病センター利用者数:令和6年度 500人	P25～P26	後期高齢者健康診査・受診率:46.0% 未病センター利用者数:223人	B	・疾病予防対策の各種保険事業を実施した。 ・がん検診や特定健診(集団)では、受診案内をハガキにするなどして、工夫した結果、受診率が向上した。	・検診時に重点的にアプローチし、重症化防止につなげる。
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者が要介護状態にならないよう、介護予防事業教室を要介護状態になる前に実施することによって、感度拡大が図られる場合により、能力法等の検討も必要となる。	・介護予防事業の推進	介護予防事業登録者(参加者)数目標: 令和6年度 転倒予防教室 40人 認知機能向上教室 70人 口腔機能向上教室 25人	P27～P28	介護予防事業登録者数:転倒予防教室 45人 認知機能向上教室 74人 口腔機能向上教室 24人	B	・介護予防事業を実施し、高齢者の心身機能や、認知機能の低下の予防を図った。	・施設で引きこもりがちにな方や、健康への関心が低い方の参加が少ない。 ・参加者による声掛けにより、無関心層への参加を促す。
①自立支援・介護予防・重度化防止	高齢者への見守り・声かけ活動など、地域における支えあい体制づくりを推進するため、市内各地区において生活支援コーディネーターと共に担い手養成研修を実施する必要がある。	・介護予防、生活支援サービス事業	生活支援体制整備目標: 令和6年度 協働体研修1回 (各地区での課題をテーマに実施)	P38	生活支援体制整備実績 災害時に研修を地域での支え合いについて研修を実施:R7,220、21人参加	B	・生活支援コーディネーターが中心となり、研修会及び地域における状況について情報共有を行った。	・地域における助け合い体制整備の取組みについて、担い手が不足している。生活支援コーディネーターが中心となり、地域の状況を整理し、担い手発掘に努める。
②給付適正化	適切な介護給付を図るため適正化事業を推進する必要がある。	・介護給付適正化の推進 ・介護人材の確保と賃金向上の取組み	介護給付適正化目標: 令和6年度 要介護認定調査結果の点検 随時実施 ケアプラン点検の実施	P41～P42	介護給付適正化実績 要介護認定調査結果の点検:随時実施 ケアプラン点検:R7,31に実施 要介護認定調査結果の点検:随時実施 要介護認定調査結果の点検:随時実施 介護人材の賃金向上の取組み:随時実施 多職種研修会:R7,22に実施	B	・要介護認定に係る調査結果の点検を随時行った。 ・ケアプラン点検を随時実施した。 ・多職種研修会を集約開催で実施した。	・ケアプラン点検など、スケジュール等を設定し実施する。

令和6年度

清川村地域包括支援センター活動状況

令和6年度清川村地域包括支援センター活動状況

地域包括支援センター設置状況（平成18年4月1日設置）

- (1) 設置箇所数 1箇所（役場子育て健康福祉課内）
- (2) 運営方法 村直営
- (3) 職員数 2名（主任介護支援専門員兼保健師1名・
社会福祉士兼介護支援専門員1名）

I 介護予防・日常生活サービス事業

(1) 介護予防ケアマネジメント事業

個々の対象者ごとに、介護予防サービスの種類や内容等を定めた計画を作成し、尊厳の保持と自立支援に努めました。

対象者内訳	総合事業対象者	19名
	要支援1	13名
	要支援2	8名
	合計	40名

(2) 一般介護予防事業

① 訪問指導・在宅訪問機能訓練

通所での介護予防事業に参加が困難な高齢者を対象に、理学療法士・保健師によるリハビリ訓練及び生活習慣病予防指導等を実施しました。

実施場所	対象者宅等
実施回数	年間6回
参加者数	19名

② 健口歯つらつ教室（隔年実施）

高齢者及びその家族を対象に、要介護者や高齢者歯科の診療を通して、高齢者の口腔ケアに関する問題や課題など、歯科医師による講話を実施しました。

実施場所	生涯学習センターせせらぎ館 みどりホール
参加者数	24名
講演内容等	令和6年12月11日（水） 講話：みんなの元気をお口から ～健口生き生きシニアライフ～

③ 転倒予防教室（にこにこあしあし体操教室）

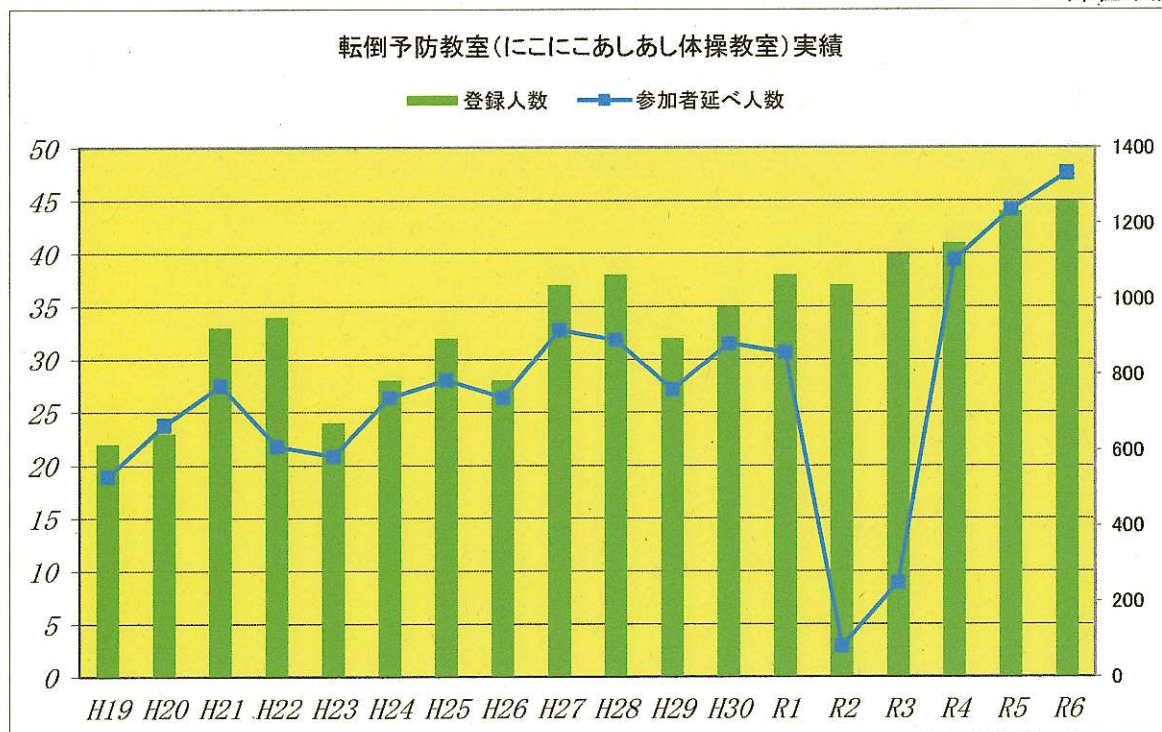
高齢者が転倒骨折等により要介護状態となることを予防し、健康増進を図ることを目的とし、健康運動指導士の指導により下肢筋力の増強・ストレッチ体操等（概ね月4回）と体力測定（年1回）を生涯学習センターせせらぎ館みどりホールで実施しました。

～転倒予防教室（にこにこあしあし体操教室）の動向～

（単位：回、人）

	実施回数	参加者延べ人数	登録人数	計画値	備考
H19	39	530	22	20	一次予防事業
H20	43	666	23	20	
H21	44	770	33	20	
H22	43	610	34	20	
H23	43	584	24	24	
H24	43	739	28	20	
H25	43	785	32	20	
H26	43	739	28	20	
H27	45	918	37	30	一般介護予防事業に変更
H28	45	892	38	30	
H29	46	760	32	30	
H30	47	882	35	30	
R1	43	859	38	30	
R2	12	82	37	30	新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止及び人数制限
R3	23	250	40	40	新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止及び人数制限
R4	45	1,103	41	40	
R5	47	1,237	44	45	
R6	48	1,333	45	40	

（単位：人）



④ 認知機能向上教室（脳活性化教室）

認知機能の低下を予防するため、健康運動指導士（理学療法士）による、認知機能の低下を防ぐ講話や実技指導を実施し、年一回体力評価と年度末にアンケートを実施しました。

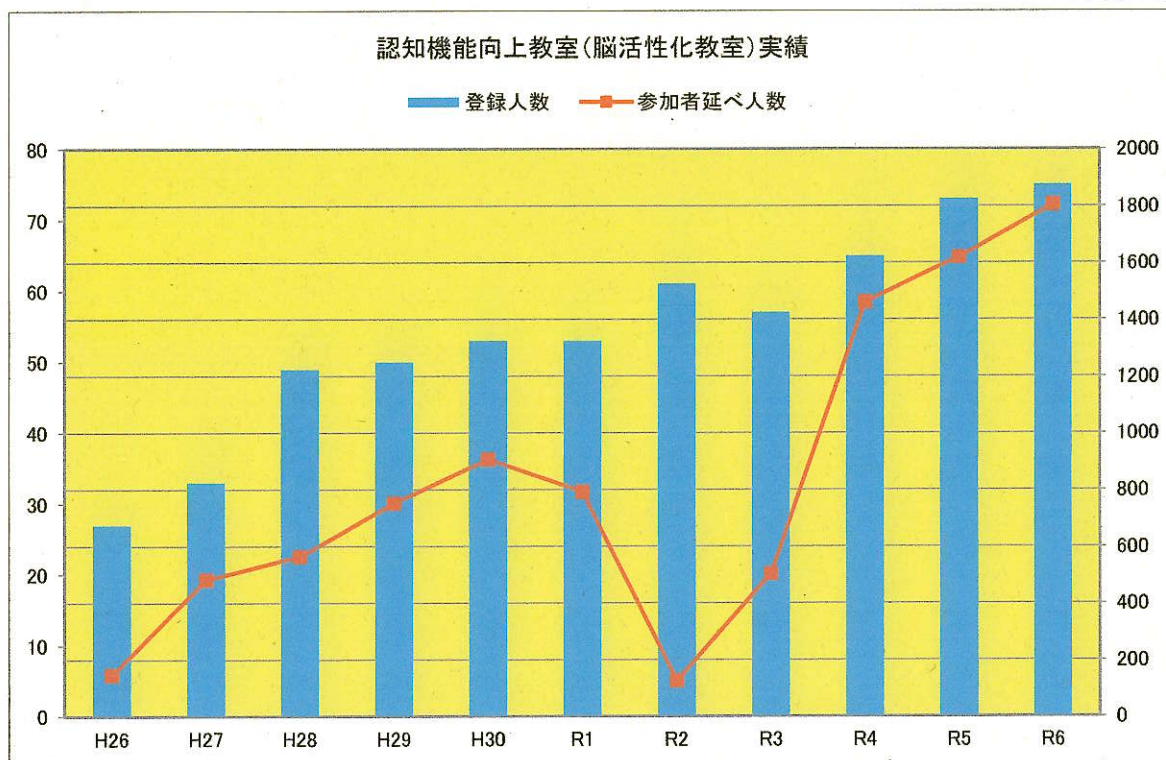
参加人数の増加に伴い、1日（1回）の実施日に2グループに時間を分け、生涯学習センターせせらぎ館みどりホールで行いました。（月3回）

～認知機能向上教室（脳活性化教室）の動向～

（単位：回、人）

	実施回数	参加者延べ人数	登録人数	計画値	備考
H26	11	147	27	-	二次予防事業
H27	24	482	33	-	一般介護予防事業に変更
H28	23	565	49	-	
H29	23	752	50	-	
H30	24	907	53	50	
R1	22	793	53	50	
R2	18	127	61	50	新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止及び人数制限
R3	23	503	57	60	新型コロナウイルス感染症の影響により一部中止及び人数制限
R4	36	1,462	65	60	
R5	36	1,620	73	65	
R6	36	1,805	75	70	

（単位：人）



～認知機能向上教室（脳活性化教室）参加者アンケート集計結果・抜粋～
もの忘れ

	項目	件数	%
1	多い	7	12%
2	少し多い	30	52%
3	少ない	13	22%
4	ほとんどない	6	10%
5	未回答	2	3%
	計	58	

睡眠

	項目	件数	%
1	良くなった	12	21%
2	変化なし	46	79%
3	悪くなった	0	0%
4	未回答	0	0%
	計	58	

動作

	項目	件数	%
1	動きやすい	9	16%
2	変化なし	37	64%
3	動きにくくなった	10	17%
4	未回答	2	3%
	計	58	

体力

	項目	件数	%
1	付いた	7	12%
2	変化なし	36	62%
3	落ちた	12	21%
	未回答	3	5%
	計	58	

※ %については少数点以下の影響で100%にならないことがあります。

(3) 通所型サービス事業

要支援者及び総合事業対象者の引きこもりや認知症予防のため、村社会福祉協議会に委託し、介護の専門の資格をもった方による介護予防・生活指導・運動やレクリエーション等を通所の方法により提供し、要介護状態にならないよう心身機能の維持または向上と利用者相互の交流を実施しました。

実施場所	保健福祉センターやまびこ館 1階 機能訓練室
実施回数	週4回（月・火・水・木）
委託先	清川村社会福祉協議会
参加者利用料	400円/日

Ⅱ 包括的支援事業

(1) 総合相談支援事業

高齢者の健康や介護など生活全般に関する相談等に対応し、介護保険をはじめ、医療・保健・福祉サービスなどの様々な制度や地域資源を紹介し、適切な支援を行いました。

相談者	本人	家族	住民	ケアマネ	医療機関等	事業者	合計
人数	52名	84名	23名	13名	5名	19名	196名

相談内容	健康関連・生活や福祉関係	介護・支援方法等	介護保険サービス利用関連	権利擁護関連（虐待の疑い含む。）	その他	合計	うち認知症に關すること
件数	117件	6件	82件	8件	2件	215件	21件

(2) 権利擁護事業

高齢者で認知症等により判断能力に支障があり、権利擁護事業や成年後見制度が必要と思われる方に対し、制度に関する情報提供と利用者支援を実施しました。また、清川村権利擁護推進協議会の会議に出席し、関係機関との連携を図りました。なお、虐待を受けている疑いのある高齢者に関する相談については、令和6年度は8件ありました。

相談者	身体的虐待	経済的虐待	心理的虐待	性的虐待	介護・世話の放棄や放任	合計
本人	0件	0件	0件	0件	0件	0件
近隣住民	0件	0件	3件	0件	1件	4件
ケアマネ	0件	0件	0件	0件	0件	0件
家族	0件	0件	1件	0件	0件	1件
社会福祉協議会	0件	0件	1件	0件	1件	2件
福祉施設等	0件	0件	0件	0件	0件	0件
医療機関	1件	0件	0件	0件	0件	1件
合計	1件	0件	5件	0件	2件	8件

成年後見制度対応件数	0件
------------	----

清川村権利擁護推進協議会	2回
--------------	----

(3) 在宅医療・介護連携推進事業

高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることが出来るよう、自分らしい最期を迎えることが出来るよう、地域住民やケアマネジャーに参加していただき、在宅医療と介護連携の理解を深めるために講演会を開催しました。

実施場所	生涯学習センターせせらぎ館 みどりホール
参加者数	67名
講演内容等	令和6年12月19日(木) 講話：在宅での看取り ～自分らしい最期を迎えるために～

(4) 包括的・継続的ケアマネジメント支援事業

- ① ケアマネジャー連絡会等に出席し、情報交換や困難事例の検討・研修会など、業務の連携・向上を図るものです。

ケアマネジャー連絡会等	2回
厚愛地区医療介護連携多職種研修会	「情報共有」 ～地域(チーム)での「情報共有」で目指していくミライ～
あつぎ介護フォーラム	「健康寿命を延ばそう」 ～今日からできる3つの秘策～

- ② 個別のケアマネジメント支援を通して、関係機関と連携・支援体制の構築を図りました。

サービス担当者会議	38回
-----------	-----

- ③ 支援困難ケースに対し、保健医療・福祉及び介護等の関係機関、民間サービス事業者やボランティア・各種団体等との連携を図り介護支援を実施しました。

医療機関・サービス事業所等との連携	随時
-------------------	----

(5) 介護予防普及啓発事業

地域包括支援センターの利用促進や各種情報を提供するため、広報紙等による住民への周知を図りました。

広報紙	11月号	地域で見守り支えあう体制づくり～住み慣れた清川村でいつまでも暮らし続けていけるように～
	8月号	地域包括支援センターにご相談ください
きよかわ地域包括だより		年間4回発行(4・7・10・1月)

(6) 地域包括ケアの推進に向けた地域ケア会議等

高齢者等へ適切な支援のため、社会福祉士・介護支援専門員・保健師等の関係者で個別ケースの検討を行いました。また、検討によって共有された地域の課題を、地域づくりや政策形成に結びつけ、地域包括ケアを推進することに努めました。また、令和6年度は高齢、子ども、障がい等の分野を超えて情報交換やサロンの活動状況、参加状態の把握を行いました。

地 域 個 別 ケ ア 会 議	開催回数：12回
	・事例検討会（要介護者と障がい者の家族支援等） ・地域課題（高齢、子ども、障がいなどの分野を超えて情報交換、サロンの活動状況、令和5年度介護保険現況について等）

(7) 75歳以上高齢者訪問事業

75歳以上の高齢者で、入院や入所をしていない方を対象に、自宅訪問や電話連絡を行い、緊急連絡先の把握や個々の抱えている問題の把握と対応、地域包括支援センターの普及等を実施しました。

年度	訪問対象者数	訪問者数
令和 2 年度	141名	68名
令和 3 年度	98名	61名
令和 4 年度	90名	23名
令和 5 年度	129名	59名
令和 6 年度	129名	53名

(8) 介護者交流会（みかんの会）

介護者の身体的・精神的負担を軽減するため、専門家からのアドバイス、ウォーキングやゲーム等を実施し、介護者相互の交流会を開催しました。また、認知症カフェでは、花物語きよかわの方と交流を図りました。

実 施 場 所	保健福祉センターやまびこ館 他
実 施 回 数	年間4回（4・7・10・1月） ※10月は、認知症カフェと合同開催
参 加 者 数	37名（延べ人数・10月は介護者交流会メンバーのみ）
きよかわ介護者交流会だより	年間4回発行（4・6・10・12月）

(9) 清川村生活支援体制整備事業

生活支援コーディネーターと住民が参画し、定期的な情報共有及び連携・協働による助け合い社会を推進するため、清川村生活支援体制整備事業推進連絡会（清川村支え合い体制づくり協議体）を開催しました。

協議体及び各地区のサロン活動の担い手の方を対象に、「能登半島地震から学ぶ災害時の地域での支え合い」というテーマで研修会を実施しました。

また、地域における通いの場（サロン活動等）に生活支援コーディネーターとして参加し、地域活動の状況把握や新たなサロン活動の創設などを行いました。

清川村生活支援体制整備事業推進連絡会（協議体）

実施回数	年間1回（3月）
構成団体	民生委員児童委員協議会、社会福祉協議会、地域包括支援センター、地域で活動する団体（緑ことぶき連合会、煤ヶ谷婦人会）、厚木警察署、子育て健康福祉課

支えあい体制づくり研修会

実施場所	生涯学習センターせせらぎ館 みどりホール
実施回数	年間1回（2月）
参加者数	21名
研修内容	「能登半島地震から学ぶ災害時の地域での支え合い」 講師：認定NPO法人かながわ311ネットワーク 防災士 防災教育ファシリテーター 理事 防災教育事業担当 石田 真実 氏

通いの場（サロン活動）

実施場所	自治会館等
地域支援コーディネーターの参加回数	31回 ・みずうみの会 8回（宮ヶ瀬地区） ・仲良しクラブ 2回（曲師宿・古在家） ・寺家の谷サロン 6回（寺家谷戸・谷太郎） ・サロンなでしこ 2回（下原・根岸） ・サロンあおな 5回（中里・大野・新屋敷） ・かわせみの会 7回（柳梅・片原） ・えがおの会 1回（沖金翅・前金翅・宮野御門・寺鐘地区）

ふらっとやまびこ開放デー（毎月第1・3・5水曜日）

実施場所	保健福祉センターやまびこ館 2階 多目的集会室
実施回数	19回
参加者数	（実人数 16名）延べ 72名

(10) 清川村認知症総合支援事業

認知症の早期発見や早期対応を目的とし、認知症サポート医や保健師、社会福祉士などで構成された認知症初期集中支援チームを設置しており、本人や家族からの相談により、認知症と疑われる方や認知症の方および家族を訪問し、アセスメント（専門職で情報を収集し分析すること）や、家族支援などの初期の支援を包括的・集中的に行い、医療や介護サービスなどにつなぎ、自立した生活ができるようサポートを行っています。なお、認知症初期集中支援チームへの令和6年度の相談はありませんでした。

また、認知症等により行方不明の恐れがある高齢者等に対し、「清川村認知症等見守り支援ラベルシール交付事業（どこシル伝言板）」を開始しました。

認知症初期集中相談件数	0件
-------------	----

認知症初期集中支援チーム員会議	0回
-----------------	----

認知症カフェ	実施場所	生涯学習センターせせらぎ館 みどりホール
	実施回数	年間1回（10月）
	参加者数	20名 ※煤ヶ谷婦人会がチームオレンジとして参加

広報啓発活動	広報紙 9月号	9月21日は「世界アルツハイマーデー」 認知症高齢者等見守り支援ラベルシール交付 事業を開始します！
	清川村図書館内のお薦め本コーナーに、認知症関連の本 及びチラシを配架し、啓発活動を実施。 実施期間：9月1日から9月30日まで （世界アルツハイマー月間期間中）	

認知症高齢者等見守り支援ラベルシール交付事業交付実績	0件
----------------------------	----

(11) 健康寿命延伸事業（お元気測定会・サロン対抗モルック大会）

高齢者の自立した生活の実現と健康寿命の延伸を図るため、通いの場（サロン）5か所において保健師による健康指導や管理栄養士による栄養相談、体力測定・運動指導を行いました。また、サロン対抗によるモルック大会を開催し、保健予防と介護予防を一体的に実施しました。

お元気測定会

実施場所	自治会館等
開催サロン	寺家の谷サロン・かわせみの会（寺家谷戸・谷太郎・片原・柳梅） サロンあおな（中里・大野・新屋敷） サロンなでしこ（根岸・下腹） 舟沢サロン（上舟沢・下舟沢）
参加者数	26人

サロン対抗モルック大会

実施場所	生涯学習センターせせらぎ館 みどりホール
参加サロン	柿坂サロン、仲良しクラブ、ふれあいの日紡ぎの集い、舟沢サロン、サロンなでしこ、寺家の谷サロン、サロンあおな、かわせみの会、えがおの会、みずうみの会
参加者数	64人

Ⅲ 任意事業

(1) 日常生活用具給付事業

要介護者・要支援者及び介護予防・日常生活支援総合事業対象者に対し、日常生活用具の機能維持・自立促進及び介護者の負担を軽減することを目的におむつや尿とりパットなどの給付が受けられる日常生活用具給付券を交付しました。

登録者数：67人（3月末時点）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	
44人	42人	45人	47人	47人	43人	
10月	11月	12月	1月	2月	3月	支給者合計
43人	38人	41人	50人	43人	49人	532人

※支給者合計は延べ人数

高齢者保健福祉計画・第 10 期介護保険
事業計画について

高齢者保健福祉計画・第10期介護保険事業計画基礎調査支援業務(案)

【対象者】

種別	対象者	送付予定者	内容
65歳以上の住民	一般高齢者	無作為抽出 600名	国の定める介護予防・日常生活圏域二ーズ調査 + 村独自
	総合事業対象者、在宅でサービスを利用している要支援認定者(新規認定者を除く)	全員	国の定める介護予防・日常生活圏域二ーズ調査 + 国の定める在宅介護実態調査 + 村独自
40歳～64歳の住民	要支援・要介護認定者を除く	無作為抽出 300名	村独自
在宅要介護認定者及びその家族	在宅でサービスを利用している要介護認定者及びその家族(新規認定者を除く)	全員	国の定める在宅介護実態調査 + 村独自
施設入所者の要介護認定者の家族	施設等に入所している要介護認定者及びその家族	全員	村独自

【業務スケジュール】

令和7年度	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
運営協議会	①						②	
支援業務委託契約								
アンケート内容検討								
発送準備(郵便局他)								
アンケート発送・回収								
集計・分析								
報告書作成・納品								

【主な委託業務内容】

- ① 発送用・返信用封筒の印刷
- ② アンケート結果の各種集計・分析等
- ③ 報告書の作成(地域見える化システムに登録可能なデータ形式での作成)
- ④ 成果の納品(データ納品)

参 考 資 料

通所型サービス事業(ほのぼのクラブ)・実績

単位:人

単位:円

〈利用料合計〉

〈費用総合計〉

利用料	委託料	備品購入費	合計
363,900	5,113,641	111,132	5,224,773
1日あたり平均人数			
6.5			

利用料	委託料	備品購入費	合計
332,100	5,427,215	0	5,427,215
1日あたり平均人数			
6.1			

H30	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
実施日数	16	18	16	11	13	15	18	17	15	15	15	15	184
利用希望べ人数	94	113	108	85	84	104	115	112	101	99	99	94	1,208
登録者数	22	25	26	27	27	26	26	24	25	25	26	25	

利用料	委託料	備品購入費	合計
313,500	3,505,228	48,840	3,554,068
1日あたり平均人数			
6.5			

利用料	委託料	備品購入費	合計
520,000	5,623,620	0	5,623,620
1日あたり平均人数			
6.9			

R1	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
実施日数	16	15	16	11	11	13	15	16	15	16	14	18	180
利用希望べ人数	107	96	110	78	85	101	104	83	90	82	76	95	1,107
登録者数	24	24	24	25	25	23	22	22	22	21	21	21	

利用料	委託料	備品購入費	合計
414,800	6,693,000	0	6,693,000
1日あたり平均人数			
5.5			

利用料	委託料	備品購入費	合計
409,800	5,183,178	0	5,183,178
1日あたり平均人数			
7.1			

R2	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
実施日数	10	6	13	13	11	16	17	15	16	10	14	19	160
利用希望べ人数	58	34	73	75	75	101	112	102	111	67	98	139	1,045
登録者数	21	21	21	21	21	21	25	25	24	25	23	24	

※4/20～5/14の間(12回分)新型コロナウイルス感染症予防のため休止、(4/7～5/14:緊急事態宣言期間)

※5/19～8/25の間(15回分)火曜日休止。

利用料	委託料	備品購入費	合計
501,200	6,307,047	0	6,307,047
1日あたり平均人数			
6.6			

利用料	委託料	備品購入費	合計
414,800	6,693,000	0	6,693,000
1日あたり平均人数			
5.5			

R3	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
実施日数	16	14	18	14	17	16	16	16	16	15	14	18	190
利用希望べ人数	110	97	138	111	134	124	126	112	109	91	93	121	1,366
登録者数	24	24	25	25	26	27	26	25	26	24	23	23	

利用料	委託料	備品購入費	合計
520,000	5,623,620	0	5,623,620
1日あたり平均人数			
6.9			

利用料	委託料	備品購入費	合計
501,200	6,307,047	0	6,307,047
1日あたり平均人数			
6.6			

R4	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
実施日数	16	15	18	13	14	15	16	16	16	15	15	18	187
利用希望べ人数	108	100	126	95	102	103	109	118	116	97	105	121	1,300
登録者数	23	24	24	24	24	23	21	23	23	22	22	22	

利用料	委託料	備品購入費	合計
501,200	6,307,047	0	6,307,047
1日あたり平均人数			
6.6			

利用料	委託料	備品購入費	合計
414,800	6,693,000	0	6,693,000
1日あたり平均人数			
5.5			

R5	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
実施日数	16	17	17	12	12	15	15	17	17	16	15	15	188
利用希望べ人数	104	117	114	91	111	108	118	107	101	99	89	94	1,253
登録者数	22	22	23	24	24	23	23	19	19	20	18	18	

利用料	委託料	備品購入費	合計
414,800	6,693,000	0	6,693,000
1日あたり平均人数			
5.5			

利用料	委託料	備品購入費	合計
501,200	6,307,047	0	6,307,047
1日あたり平均人数			
6.6			

R6	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合計
実施日数	17	17	16	16	14	13	15	18	15	16	14	16	186
利用希望べ人数	89	86	82	78	69	80	90	91	104	89	77	102	1,037
登録者数	17	17	18	18	18	17	18	18	20	20	20	21	

登録者内訳

(単位:人)

年度	総合事業	要支援1	要支援2	合計
H30	20	3	2	25
R1	14	3	4	21
R2	16	4	4	24
R3	15	4	4	23
R4	14	5	3	22
R5	11	7	0	18
R6	19	13	8	40

実施場所:保健福祉センターやまびこ館 1階 機能訓練室

実施回数:週4回(月・火・水・木)

(R4から火曜日週2回利用者のみ廃止・どの曜日も週2回利用可能)

委託先:清川村社会福祉協議会

参加者利用料:@400/日

(R4から@300→@400変更)

※年度末の登録者内訳

通所型デイサービス事業(ほのぼのクラブ)実績

単位:人

〈費用額合計〉 単位:円

〈利用料合計〉

H30	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	16	18	16	11	13	15	15	18	17	15	15	15	184
利用者延べ人数	94	113	108	85	84	104	115	112	101	99	99	94	1,208
登録者数	22	25	26	27	27	26	26	24	25	25	26	25	

R1	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	16	15	16	11	13	15	15	16	15	16	14	18	180
利用者延べ人数	107	96	110	78	85	101	104	83	90	82	76	95	1,107
登録者数	24	24	24	25	25	23	22	22	22	21	21	21	

R2	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	10	6	13	13	11	16	17	15	16	10	14	19	160
利用者延べ人数	58	34	73	75	75	101	112	102	111	67	98	139	1,045
登録者数	21	21	21	21	21	21	25	25	24	25	23	24	

※4/20～5/14の間(12回分)新型コロナウイルス感染症予防のため休止。(4/7～5/14:緊急事態宣言期間)

※5/19～8/25の間(15回分)火曜日休止。

R3	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	16	14	18	14	17	16	16	16	16	15	14	18	190
利用者延べ人数	110	97	138	111	134	124	126	112	109	91	93	121	1,366
登録者数	24	24	25	25	26	27	26	25	26	24	23	23	

R4	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	16	15	18	13	14	15	15	16	16	15	15	18	187
利用者延べ人数	108	100	126	95	102	103	109	118	116	97	105	121	1,300
登録者数	23	24	24	24	24	23	21	23	23	22	22	22	

R5	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	16	17	17	12	15	15	15	17	17	16	16	15	188
利用者延べ人数	104	117	114	91	111	108	118	107	101	99	89	94	1,253
登録者数	22	22	23	24	24	23	23	19	19	20	18	18	

R6	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	17	17	16	14	13	15	15	18	15	16	14	16	186
利用者延べ人数	89	86	82	78	69	80	90	91	104	89	77	102	1,037
登録者数	17	17	18	18	18	17	18	18	20	20	20	21	

登録者内訳

年度	総合事業	要支援1	要支援2	合計
H30	20	3	2	25
R1	14	3	4	21
R2	16	4	4	24
R3	15	4	4	23
R4	14	5	3	22
R5	11	7	0	18
R6	19	13	8	40

※年度末の登録者内訳

実施場所:保健福祉センターやまびこ館 1階 機能訓練室
 実施回数:週4回(月・火・水・木)
 (R4から火曜日週2回利用者のみ廃止・どの曜日も週2回利用可能)
 委託先:清川村社会福祉協議会
 参加者利用料: @400/日
 (R4から@300→@400変更)

利用料	委託料	備品購入費	合計
363,900	5,113,641	111,132	5,224,773
1日あたり平均人数			
6.5			

利用料	委託料	備品購入費	合計
332,100	5,427,215	0	5,427,215
1日あたり平均人数			
6.1			

利用料	委託料	備品購入費	合計
313,500	3,505,228	48,840	3,554,068
1日あたり平均人数			
6.5			

利用料	委託料	備品購入費	合計
409,800	5,183,178	0	5,183,178
1日あたり平均人数			
7.1			

利用料	委託料	備品購入費	合計
520,000	5,623,620	0	5,623,620
1日あたり平均人数			
6.9			

利用料	委託料	備品購入費	合計
501,200	6,307,047	0	6,307,047
1日あたり平均人数			
6.6			

利用料	委託料	備品購入費	合計
414,800	6,693,000	0	6,693,000
1日あたり平均人数			
5.5			

通所型デイサービス事業(ほのぼのクラブ)実績

単位:人

〈費用額合計〉 単位:円

〈利用料合計〉

H30	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	16	18	16	11	13	15	15	18	17	15	15	15	184
利用者延べ人数	94	113	108	85	84	104	115	112	101	99	99	94	1,208
登録者数	22	25	26	27	27	26	26	24	25	25	26	25	—

R1	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	16	15	16	11	13	15	15	16	15	16	14	18	180
利用者延べ人数	107	96	110	78	85	101	104	83	90	82	76	95	1,107
登録者数	24	24	24	25	25	23	22	22	22	21	21	21	—

R2	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	10	6	13	13	11	16	17	15	16	10	14	19	160
利用者延べ人数	58	34	73	75	75	101	112	102	111	67	98	139	1,045
登録者数	21	21	21	21	21	21	25	25	24	25	23	24	—

※4/20～5/14の間(12回分)新型コロナウイルス感染症予防のため休止。(4/7～5/14:緊急事態宣言期間)
※5/19～8/25の間(15回分)火曜日休止。

R3	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	16	14	18	14	17	16	16	16	16	15	14	18	190
利用者延べ人数	110	97	138	111	134	124	126	112	109	91	93	121	1,366
登録者数	24	24	25	25	26	27	26	25	26	24	23	23	—

R4	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	16	15	18	13	14	15	15	16	16	16	15	18	187
利用者延べ人数	108	100	126	95	102	103	109	118	116	97	105	121	1,300
登録者数	23	24	24	24	24	23	21	23	23	22	22	22	—

R5	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	16	17	17	12	15	15	15	17	17	16	16	15	188
利用者延べ人数	104	117	114	91	111	108	118	107	101	99	89	94	1,253
登録者数	22	22	23	24	24	23	23	23	19	20	18	18	—

R6	4月分	5月分	6月分	7月分	8月分	9月分	10月分	11月分	12月分	1月分	2月分	3月分	合 計
実施日数	17	17	16	14	13	13	15	18	15	16	14	16	186
利用者延べ人数	89	86	82	78	69	80	90	91	104	89	77	102	1,037
登録者数	17	17	18	18	18	17	18	18	20	20	20	21	—

登録者内訳

年度	総合事業	要支援1	要支援2	合計
H30	20	3	2	25
R1	14	3	4	21
R2	16	4	4	24
R3	15	4	4	23
R4	14	5	3	22
R5	11	7	0	18
R6	19	13	8	40

※年度末の登録者内訳

利用料	委託料	備品購入費	合計
363,900	5,113,641	111,132	5,224,773
1日あたり平均人数			
6.5			

利用料	委託料	備品購入費	合計
332,100	5,427,215	0	5,427,215
1日あたり平均人数			
6.1			

利用料	委託料	備品購入費	合計
313,500	3,505,228	48,840	3,554,068
1日あたり平均人数			
6.5			

利用料	委託料	備品購入費	合計
409,800	5,183,178	0	5,183,178
1日あたり平均人数			
7.1			

利用料	委託料	備品購入費	合計
520,000	5,623,620	0	5,623,620
1日あたり平均人数			
6.9			

利用料	委託料	備品購入費	合計
501,200	6,307,047	0	6,307,047
1日あたり平均人数			
6.6			

利用料	委託料	備品購入費	合計
414,800	6,693,000	0	6,693,000
1日あたり平均人数			
5.5			

実施場所:保健福祉センターやまびこ館 1階 機能訓練室
実施回数:週4回(月・火・水・木)
(R4から火曜日週2回利用者のみ廃止・どの曜日も週2回利用可能)
委託先:清川村社会福祉協議会
参加者利用料: @400/日
(R4から@300→@400変更)

通所型サービス事業(ほのぼのクラブ)実績

単位:人

〈費用額合計〉 単位:円

〈利用料合計〉

委託料	備品購入費	合計
5,113,641	111,132	5,224,773

利用料	合計
363,900	
1日あたり平均人数	6.5

委託料	備品購入費	合計
5,427,215	0	5,427,215

利用料	合計
332,100	
1日あたり平均人数	6.1

委託料	備品購入費	合計
3,505,228	48,840	3,554,068

利用料	合計
313,500	
1日あたり平均人数	6.5

※4/20～5/14の間(12回分)新型コロナウイルス感染症予防のため休止。(4/7～5/14:緊急事態宣言期間)
※5/19～8/25の間(15回分)火曜日休止。

委託料	備品購入費	合計
5,183,178	0	5,183,178

利用料	合計
409,800	
1日あたり平均人数	7.1

委託料	備品購入費	合計
5,623,620	0	5,623,620

利用料	合計
520,000	
1日あたり平均人数	6.9

委託料	備品購入費	合計
6,307,047	0	6,307,047

利用料	合計
501,200	
1日あたり平均人数	6.6

委託料	備品購入費	合計
6,693,000	0	6,693,000

利用料	合計
414,800	
1日あたり平均人数	5.5

登録者内訳

年度	総合事業	要支援1	要支援2	合計
H30	20	3	2	25
R1	14	3	4	21
R2	16	4	4	24
R3	15	4	4	23
R4	14	5	3	22
R5	11	7	0	18
R6	19	13	8	40

※年度末の登録者内訳

実施場所:保健福祉センターやまびこ館 1階 機能訓練室
実施回数:週4回(月・火・水・木)
(R4から火曜日週2回利用者のみ廃止・どの曜日も週2回利用可能)
委託先:清川村社会福祉協議会
参加者利用料: @400/日
(R4から@300→@400変更)

第1回清川村介護保険運営協議会及び清川村地域包括支援センター運営協議会
・質問等について

【ご質問】

	内 容	回 答
1	介護老人福祉施設の待機者数は何名ですか。	7名です。(令和7年4月1日現在) なお、待機者の方は、老人保健施設、グループホーム、在宅で生活をされています。
2	資料1 16ページ 6. 介護認定審査状況において、一次判定と二次判定の相違件数が6件あるがその内容や傾向は。	6件のうち、一次判定から重度になった件数が5件、軽度になった件数が1件です。 ①重度になった理由 主治医意見書等の内容により一次判定では必要なサービスの不足が見込まれる場合に審査会委員の判断により二次判定で変更しています。 ②軽度になった理由 一次判定時、入院中であると判定が重度になることが多いですが、退院後は軽度になる見込みがあり必要なサービスに支障がないことから審査会委員の判断により二次判定で変更しています。
3	資料1 22ページ 介護認定申請理由内訳の3位が「高齢による衰弱」であるが、一人暮らしが多いなどの傾向があるか。また、民生委員等の訪問により申請にいたることもあるのでしょうか。	「高齢による衰弱」とは、厚生労働省が国民生活基礎調査の区分けに準じてあてはめている区分になります。 この区分にあたる令和6年度の対象者は特に大きな疾患はないものの、高齢のため外出する機会が少なくフレイルの状態でした。(フレイル→心・体が徐々に衰えていく状態) 申請にいたるきっかけとしては、民生委員や病院からの情報提供による場合や家族からの相談による場合があります。 また、申請前より本人の周囲の方が心配であると情報提供を頂きますが、本人がデイサービスや訪問リハビリテーション等を拒否することも多いのが現状です。 そのため、介護申請までつなげて結果

		として多くは要介護認定を受ける場合が多いです。
4	資料1 23ページ 地域密着型サービス「認知症対応型共同生活介護」の実績が令和5年度より大きく増えているが村在住の方の利用の状況を教えてほしい。	「認知症対応型共同生活介護」は「グループホーム花物語(定員 18 名)」の利用者の実績となります。 【令和5年度】 延べ利用件数95件、実利用人数12名 【令和6年度】 延べ利用件数154件、実利用人数16名 死亡による入居者の退所もありますが、令和5年度より村内利用者が増えています。 なお、直近の令和7年6月の利用者は13名となっています。
5	資料1 24ページ 「総合計額の分析内容」で、減少となったサービスが「認知症対応型通所介護」で「施設への入所と異なるサービスを利用」となっていますがどのようなサービスを利用したのですか。	令和5年度の「認知症対応型通所介護」実利用人数は3名でしたが、令和6年度の実利用人数は1名と減少しました。 1名の方は令和5年度から継続で利用されていますが、2名の方のうち1名が施設への入所、1名は、訪問看護・通所介護・訪問入浴介護等のサービスへの利用になっています。
6	資料1 29ページ 「令和6年度実績・分析内容」で要因として「要支援の認定者が利用する介護予防サービスの変化によるもの」となっていますがどのような変化ですか。	給付費の全体の実績の視点から分析すると、令和6年度介護予防サービスの給付費のは、通所リハビリテーション及び訪問看護の増加によるものです。令和5年度介護予防サービスの給付費は、通所介護、特定施設入居者生活介護の支出が多かったため、利用するサービスが変化していると考えられています。

第1回清川村介護保険運営協議会及び清川村地域包括支援センター運営協議会
・質問等について

【ご質問】

	内 容	回 答
1	介護老人福祉施設の待機者数は何名ですか。	7名です。(令和7年4月1日現在) なお、待機者の方は、老人保健施設、グループホーム、在宅で生活をされています。
2	資料1 16ページ 6. 介護認定審査状況において、一次判定と二次判定の相違件数が6件あるがその内容や傾向は。	6件のうち、一次判定から重度になった件数が5件、軽度になった件数が1件です。 ①重度になった理由 主治医意見書等の内容により一次判定では必要なサービスの不足が見込まれる場合に審査会委員の判断により二次判定で変更しています。 ②軽度になった理由 一次判定時、入院中であると判定が重度になることが多いですが、退院後は軽度になる見込みがあり必要なサービスに支障がないことから審査会委員の判断により二次判定で変更しています。
3	資料1 22ページ 介護認定申請理由内訳の3位が「高齢による衰弱」であるが、一人暮らしが多いなどの傾向があるか。また、民生委員等の訪問により申請にいたることもあるのでしょうか。	「高齢による衰弱」とは、厚生労働省が国民生活基礎調査の区分けに準じてあてはめている区分になります。 この区分にあたる令和6年度の対象者は特に大きな疾患はないものの、高齢のため外出する機会が少なくフレイルの状態でした。(フレイル→心・体が徐々に衰えていく状態) 申請にいたるきっかけとしては、民生委員や病院からの情報提供による場合や家族からの相談による場合があります。 また、申請前より本人の周囲の方が心配であると情報提供を頂きますが、本人がデイサービスや訪問リハビリテーション等を拒否することも多いのが現状です。 そのため、介護申請までつなげて結果

		として多くは要介護認定を受ける場合が多いです。
4	資料1 23ページ 地域密着型サービス「認知症対応型共同生活介護」の実績が令和5年度より大きく増えているが村在住の方の利用の状況を教えてほしい。	「認知症対応型共同生活介護」は「グループホーム花物語(定員 18 名)」の利用者の実績となります。 【令和5年度】 延べ利用件数95件、実利用人数12名 【令和6年度】 延べ利用件数154件、実利用人数16名 死亡による入居者の退所もありますが、令和5年度より村内利用者が増えています。 なお、直近の令和7年6月の利用者は13名となっています。
5	資料1 24ページ 「総合計額の分析内容」で、減少となったサービスが「認知症対応型通所介護」で「施設への入所と異なるサービスを利用」となっていますがどのようなサービスを利用したのですか。	令和5年度の「認知症対応型通所介護」実利用人数は3名でしたが、令和6年度の実利用人数は1名と減少しました。 1名の方は令和5年度から継続で利用されていますが、2名の方のうち1名が施設への入所、1名は、訪問看護・通所介護・訪問入浴介護等のサービスへの利用になっています。
6	資料1 29ページ 「令和6年度実績・分析内容」で要因として「要支援の認定者が利用する介護予防サービスの変化によるもの」となっていますがどのような変化ですか。	給付費の全体の実績の視点から分析すると、令和6年度介護予防サービスの給付費のは、通所リハビリテーション及び訪問看護の増加によるものです。令和5年度介護予防サービスの給付費は、通所介護、特定施設入居者生活介護の支出が多かったため、利用するサービスが変化していると考えられています。

第1回清川村介護保険運営協議会及び清川村地域包括支援センター運営協議会
・質問等について

【ご質問】

	内 容	回 答
1	介護老人福祉施設の待機者数は何名ですか。	7名です。(令和7年4月1日現在) なお、待機者の方は、老人保健施設、グループホーム、在宅で生活をされています。
2	資料1 16ページ 6. 介護認定審査状況において、一次判定と二次判定の相違件数が6件あるがその内容や傾向は。	6件のうち、一次判定から重度になった件数が5件、軽度になった件数が1件です。 ①重度になった理由 主治医意見書等の内容により一次判定では必要なサービスの不足が見込まれる場合に審査会委員の判断により二次判定で変更しています。 ②軽度になった理由 一次判定時、入院中であると判定が重度になることが多いですが、退院後は軽度になる見込みがあり必要なサービスに支障がないことから審査会委員の判断により二次判定で変更しています。
3	資料1 22ページ 介護認定申請理由内訳の3位が「高齢による衰弱」であるが、一人暮らしが多いなどの傾向があるか。また、民生委員等の訪問により申請にいたることもあるのでしょうか。	「高齢による衰弱」とは、厚生労働省が国民生活基礎調査の区分けに準じてあてはめている区分になります。 この区分にあたる令和6年度の対象者は特に大きな疾患はないものの、高齢のため外出する機会が少なくフレイルの状態でした。(フレイル→心・体が徐々に衰えていく状態) 申請にいたるきっかけとしては、民生委員や病院からの情報提供による場合や家族からの相談による場合があります。 また、申請前より本人の周囲の方が心配であると情報提供を頂きますが、本人がデイサービスや訪問リハビリテーション等を拒否することも多いのが現状です。 そのため、介護申請までつなげても結果

		として多くは要介護認定を受ける場合が多いです。
4	資料1 23ページ 地域密着型サービス「認知症対応型共同生活介護」の実績が令和5年度より大きく増えているが村在住の方の利用の状況を教えてほしい。	「認知症対応型共同生活介護」は「グループホーム花物語(定員 18 名)」の利用者の実績となります。 【令和5年度】 延べ利用件数95件、実利用人数12名 【令和6年度】 延べ利用件数154件、実利用人数16名 死亡による入居者の退所もありますが、令和5年度より村内利用者が増えています。 なお、直近の令和7年6月の利用者は13名となっています。
5	資料1 24ページ 「総合計額の分析内容」で、減少となったサービスが「認知症対応型通所介護」で「施設への入所と異なるサービスを利用」となっていますがどのようなサービスを利用したのですか。	令和5年度の「認知症対応型通所介護」実利用人数は3名でしたが、令和6年度の実利用人数は1名と減少しました。 1名の方は令和5年度から継続で利用されていますが、2名の方のうち1名が施設への入所、1名は、訪問看護・通所介護・訪問入浴介護等のサービスへの利用になっています。
6	資料1 29ページ 「令和6年度実績・分析内容」で要因として「要支援の認定者が利用する介護予防サービスの変化によるもの」となっていますがどのような変化ですか。	給付費の全体の実績の視点から分析すると、令和6年度介護予防サービスの給付費のは、通所リハビリテーション及び訪問看護の増加によるものです。令和5年度介護予防サービスの給付費は、通所介護、特定施設入居者生活介護の支出が多かったため、利用するサービスが変化していると考えられています。

第1回清川村介護保険運営協議会及び清川村地域包括支援センター運営協議会
・質問等について

【ご質問】

	内 容	回 答
1	介護老人福祉施設の待機者数は何名ですか。	7名です。(令和7年4月1日現在) なお、待機者の方は、老人保健施設、グループホーム、在宅で生活をされています。
2	資料1 16ページ 6. 介護認定審査状況において、一次判定と二次判定の相違件数が6件あるがその内容や傾向は。	6件のうち、一次判定から重度になった件数が5件、軽度になった件数が1件です。 ①重度になった理由 主治医意見書等の内容により一次判定では必要なサービスの不足が見込まれる場合に審査会委員の判断により二次判定で変更しています。 ②軽度になった理由 一次判定時、入院中であると判定が重度になることが多いですが、退院後は軽度になる見込みがあり必要なサービスに支障がないことから審査会委員の判断により二次判定で変更しています。
3	資料1 22ページ 介護認定申請理由内訳の3位が「高齢による衰弱」であるが、一人暮らしが多いなどの傾向があるか。また、民生委員等の訪問により申請にいたることもあるのでしょうか。	「高齢による衰弱」とは、厚生労働省が国民生活基礎調査の区分けに準じてあてはめている区分になります。 この区分にあたる令和6年度の対象者は特に大きな疾患はないものの、高齢のため外出する機会が少なくフレイルの状態でした。(フレイル→心・体が徐々に衰えていく状態) 申請にいたるきっかけとしては、民生委員や病院からの情報提供による場合や家族からの相談による場合があります。 また、申請前より本人の周囲の方が心配であると情報提供を頂きますが、本人がデイサービスや訪問リハビリテーション等を拒否することも多いのが現状です。 そのため、介護申請までつなげて結果

		として多くは要介護認定を受ける場合が多いです。
4	資料1 23ページ 地域密着型サービス「認知症対応型共同生活介護」の実績が令和5年度より大きく増えているが村在住の方の利用の状況を教えてほしい。	「認知症対応型共同生活介護」は「グループホーム花物語(定員 18 名)」の利用者の実績となります。 【令和5年度】 延べ利用件数95件、実利用人数12名 【令和6年度】 延べ利用件数154件、実利用人数16名 死亡による入居者の退所もありますが、令和5年度より村内利用者が増えています。 なお、直近の令和7年6月の利用者は13名となっています。
5	資料1 24ページ 「総合計額の分析内容」で、減少となったサービスが「認知症対応型通所介護」で「施設への入所と異なるサービスを利用」となっていますがどのようなサービスを利用したのですか。	令和5年度の「認知症対応型通所介護」実利用人数は3名でしたが、令和6年度の実利用人数は1名と減少しました。 1名の方は令和5年度から継続で利用されていますが、2名の方のうち1名が施設への入所、1名は、訪問看護・通所介護・訪問入浴介護等のサービスへの利用になっています。
6	資料1 29ページ 「令和6年度実績・分析内容」で要因として「要支援の認定者が利用する介護予防サービスの変化によるもの」となっていますがどのような変化ですか。	給付費の全体の実績の視点から分析すると、令和6年度介護予防サービスの給付費のは、通所リハビリテーション及び訪問看護の増加によるものです。令和5年度介護予防サービスの給付費は、通所介護、特定施設入居者生活介護の支出が多かったため、利用するサービスが変化していると考えられています。